

2013年3月1日
在アンゴラ日本国大使館

アンゴラ情勢報告（2013年2月）

【2月の政治動向】

<内政>

- ・ **鉄道インフラ**：5日、ルアンダ中央駅・ブンゴ駅間の路線が開通。ルアンダ鉄道は、1日7,000人の乗客を見込んでいる。
- ・ **観光**：4日、ソウザ国内行政大臣は植民地解放戦線開始記念式典に出席し、石油依存型の経済を脱却する必要性を訴え、クネネ州とウイラ州、ナミベ州で観光の三角地帯を形成することで、より多くの富と雇用を創出することが可能である旨述べた。
- ・ **鉱業**：ケイロス地質鉱山大臣は、南アの鉱物商業化システムを参考に、本年中に戦略的鉱物資源市場規制庁（Agência Reguladora de Mercado de Minerais Estratégicos）を設立する意向を示した。
- ・ **新通貨の発行**：
 - アンゴラ中銀副総裁は、現在流通している通貨は、今後中銀が使用期限を定め、その時点で使用できなくなる旨述べた。使用期限は最長で5年以内となる見込み。
 - アンゴラ中銀は新規通貨のうち50セント，1，5クワンザ貨幣の流通を18日より開始した旨発表。
- ・ **ソブリン・ファンドの合憲性**：野党 CASA-CE が、大統領によるソブリン・ファンド創設の違憲判断を求めていた問題で、憲法裁判所は、いかなる違憲性も存在せず、ソブリン・ファンドが大統領に唯一、独占的に依存する公的な行政機関であるとの判断を下した。
- ・ **2013年度国家予算の成立**：14日、2013年度予算が国会で承認された。公的債務を含む歳入、及び、歳出は、それぞれ6.6兆クワンザ。
- ・ **物価指数の上昇**：財務省の発表によると、2012年12月から2013年1月の間で、ルアンダ市における消費者物価指数（Índice de Preços no Consumidor）が0.61%上昇した。
- ・ **輸出支援機関の設立**：パカヴィラ商務大臣は、今年、国内産品の国際市場へのアクセス促進を目的とした輸出支援機関を設立する旨発表した。
- ・ **アンゴラ・テレコム役員人事**：経済大臣は、アンゴラ・テレコムの新たな役員人事を発表した。総裁に João Adolfo Martins、役員に Naiole dos Santos, Pedro Miguel, Manuel

António, João Domingos が任命された。

- ・ **民間投資**：19日，民間投資庁（ANIP）は，総額約13億クワンザの5つの民間投資契約に署名。契約分野は，建設，貿易，石油関連サービス，電力・通信インフラ，鉱業にわたる。
- ・ **国家資金借入計画**：21日，閣僚経済委員会は，2013年資金借入計画を発表。借入総額は，5885億クワンザ，59億ドル相当。
- ・ **閣議**：27日，閣議において，交通機関と交通整理に関する国家委員会の創設が採択された。また，ルアンダ州カゼンガの配水場の拡大，クアンド・クバンゴ州カライ，ウイラ州マタラの給水施設の修復・拡張，カママの技術パーク建設計画が承認された。

<外交>

- ・ **Mining INDABA2013**：4日より南アにおいて Mining INDABA が開催され，アンゴラからケイロス地質鉱山大臣が出席。
- ・ **スイス・アンゴラ関係**：
 - 5日，シコティ外務大臣とスイス連邦司法・政務大臣は外交・公用旅券所持者に対する査証免除に関する協定に署名。
 - 6日，アンジェロ・ベイガ内務大臣は，スイス連邦司法・政務大臣との間で，両国間協力協定に署名。同協定は，不法移民対策，人身売買，偽造書類対策における研修等の分野を含む。
- ・ **ドイツ・アンゴラ関係**：
 - 5日，マヌエル・アウグスト外務副大臣は，メルケル独首相の特使と面談。特使は，2011年のメルケル独首相の当地来訪以降の両国間協力関係の進捗状況を把握することを目的としアンゴラを訪問。野党 UNITA 幹部とも会談。
- ・ **葡・アンゴラ関係**：
 - 5～6日，パウロ・ポルトス葡外務大臣はアンゴラを公式訪問し，ドス・サントス大統領，ヴィセンテ副大統領，シコティ外務大臣等と会談した。ポルトス葡外相は，今年中に二国間首脳会合を実施する意向を示した。首脳会合では，査証協定や既に締結済みの他の協定の改定について話し合われる予定。
 - アブランテス ANIP 長官は，ポルトガルが経験を有し，かつ，アンゴラに不足している分野である，農業と漁業に投資すべきとの見解を示した。さらに，ポルトガルが得意とする建設や不動産，ホテルへの投資も歓迎する旨述べた。
- ・ **伯アンゴラ関係**：
 - 6日より，ブラジルにおいて民間投資に関する法的枠組みを研究するプログラムが実

施され、アラウージョ司法担当大統領補佐官を団長とするアンゴラ代表団が研修を受けた。

- 18～19日、二国間の関係強化を目的として、アモリン伯国防大臣が大統領親書を携行しアンゴラを訪問。ドス・サントス大統領、シコティ外務大臣、ヴァン・ドゥーネン国防大臣と会談した。両国は軍需産業の促進と軍部関係人材の育成において協力していく旨話し合った。アンゴラと伯は共同軍事委員会の創設を決定し、また、軍事協力分野に関する MoU を締結。
- アンゴラ軍は、軍備近代化の一環として、ブラジルから軍用機 Super Tucano 及び Cessna 172R Skyhawks を購入し本年中に到着する旨発表。

- ・ **コンゴ（民）・アンゴラ関係**：7日、カビラ・コンゴ（民）大統領特使は、大統領の親書を携行し、ドス・サントス大統領を表敬。カビラ大統領は親書の中で、ドス・サントス大統領やアンゴラがコンゴ（民）東部情勢の安定化に大きく貢献したとして謝意を示した。

- ・ **中国・アンゴラ関係**：ソナンゴルは、付属機関である Sonangol Finance Limited を通じ、中国開発銀行から約1300万クワンザの融資を受ける契約をした。償還期間10年、金利はLIBOR に3.5%上乗せ。

- ・ **キューバ・アンゴラ関係**：キューバは、現在クアンド・クバンゴ州の保健、教育、建設分野に230人以上の専門家を派遣しているが、さらに専門家を追加派遣する用意があるとした。

- ・ **ナミビア・アンゴラ関係**：18日、ナミビア鉱物・エネルギー大臣はヴァスコンセロ石油大臣と会談し、ロビト（ベンゲラ州）とソヨ（ザイレ州）の精油所建設計画に参加する意向を示した。また、ケイロス地質鉱山大臣とも会談を行い、人材育成や航空地質調査といった分野での協力につき話し合った。

- ・ **韓国・アンゴラ関係**：韓国は小規模無償資金協力案件として、車両、パソコン、テレビ等を漁業省に供与した。また、ネト漁業大臣は、魚の養殖においても韓国と協力する意向を示した。

- ・ **ウルグアイ・アンゴラ関係**：26日、アンゴラとウルグアイは外交旅券での査証免除協定に署名。ウルグアイ外務大臣は、27日に大統領親書を携行しドス・サントス大統領を表敬。ドス・サントス大統領に対しウルグアイ訪問を要請した。

- ・ **セルビア・アンゴラ関係**：27日、セルビア国防大臣がアンゴラを訪問し、セルビアとの協力で建設される軍病院の定礎式に出席した。また、27日、ドス・サントス大統領を表敬訪問し、セルビアは学生や官僚の研修において協力する用意がある旨述べた。

- ・ **国際機関**：

- 世銀は、アンゴラにおける鉱業事業への融資のためのクレジット・ラインを供与する用意がある旨述べた。
- 国際農業開発基金（International Fund for Agricultural Development）総裁は、アンゴラ政府からの招待に応じ今年にもアンゴラを訪問する意向を示した。
- イオナ国立公園の生物多様性の保存プロジェクトが6カ年計画で実施される。同計画には、アンゴラ政府が4億7600万クワンザ、UNDP が1億300万クワンザ、EU が5億1400万クワンザ、環境世界基金が1億9300万をそれぞれ支出。

・ **CPLP**：11日、ルイ・マンゲイラ法務・人権大臣は葡を訪問し、犯罪人引渡に関する両国法務省間議定書の最終交渉を行った。CPLP 間で締結された犯罪人引渡に関する議定書に基づき、アンゴラ・ポルトガル間での同引渡が可能である旨確認された。

・ **経済協力**：ブラガンサ外務協力担当副大臣は、ユーロ圏の経済危機にともなうヨーロッパの地政学的変化は、アンゴラと欧州諸国との関係を変容させた旨述べた。今や援助国と被援助国といった関係は過去のものであり、アンゴラの経済成長が進展し、民間投資法によりビジネス環境が整った今、企業との協力関係に重点が移っているとした。

・ **ロビト回廊に関する専門家会合**：ロビト回廊に関する専門家会合が開催され、アンゴラ、ザンビア、コンゴ（民）の専門家が出席。ロビト回廊の構想には、Lobito・Luau 間鉄道（アンゴラ）、及び、Diloto・Lubumbashi 間鉄道（コンゴ（民））の復旧と、Chingola 北西鉄道（ザンビア）の建設が含まれる。同回廊は、隣国間の貿易や投資呼び込みにより持続可能な経済成長を促す重要な地域インフラシステムであると考えられている。3カ国は、運輸簡易化のための機関（Agência para a Facilitação do Transporte de Trânsito (TTFA)）を創設し、ロビトに本部を設置する。

本構想に関連し、米国企業 GE は運輸省との間に100車両以上の鉄道車両販売や TAAG の輸送機メンテナンスを含む協定に署名。

・ **南南協力**：22日、シコティ外務大臣は大統領の代理として、「南南協力を強化するための戦略とメカニズム」をテーマに赤道ギニアで開催されたアフリカ・南米諸国首脳会合に出席。

・ **大湖地域情勢**：24日、アディス・アベバにて、コンゴ（民）政府と同地域紛争の関連諸国との間で、コンゴ（民）と大湖地域における平和・治安・協力枠組文書の署名式が行われた。同文書には、出席した11カ国の代表や潘基文/国連事務総長等が署名。アンゴラからはマヌエル・ヴィセンテ副大統領が出席し署名した。

【基本事項】

<一般情報>

- ・ 国名はンドンゴ王国の王号ンゴラに由来。人口1961万8432人¹（2011年世銀推計）
- ・ 旧ポルトガル植民地であり、1975年に独立。独立後、1975年から2002年まで長年に亘る内戦を経験し、2002年に和平を達成。

<政治体制・内政>

- ・ 大統領を元首とする共和制国家。
- ・ 2002年の内戦終結以降、民主化を進めており、国内政治的には非常に安定。
- ・ 2008年9月に内戦終了後、16年ぶり2度目の国会議員選挙が実施され、与党アンゴラ解放人民運動党（MPLA）が81.3%の得票で圧勝。
- ・ ジョゼ・エドゥアルド・ドス・サントス大統領は、初代大統領アゴスティーニョ・ネットの死去を受け、1979年9月20日就任。
- ・ 2010年に新憲法が施行。首相職が廃止され、副大統領を設置。大統領と国会議員の選出を同一の選挙で実施する「議院大統領制」が採用された。大統領の任期は5年²、2期まで。議会は1院制（議席数220、任期5年）。
- ・ 2012年8月31日、新憲法の下で初、史上2度目の大統領選挙、史上3度目の国会議員選挙となる総選挙が実施され、ドス・サントス大統領が再任された。

（了）

¹ 2014年に国勢調査の実施を予定。